



3学年だより

前期選抜試験、終わる!

3月4日(水)～3月6日(金)に県立高校前期選抜試験が行われました。お疲れさまでした。

今はほっとした気持ちと、不安な気持ちと複雑ではないでしょうか？学校に登校できていれば、友人とのおしゃべりや卒業式の練習等で、気持ちがまぎれるところもあるかと思えます。それが今年はず、1人で考え込んでいませんか？

先週末、担任の先生から電話が入ったと思います。休校になってから1週間。全員が、元気に過ごしていると聞きました。この生活がまだまだ続きます。「ピンチをチャンスに！」

毎日朝遅くまで寝ていたり、ごろごろしていたり、スマホと親密な関係になっていたり・・・自分の好きなことだけをするのではなく、自分を律し、毎日時間を決めて、学習・運動していきましょう。自分の気持ちをコントロールすることは、大変なことです。しかし、皆さんはその大変な時を自分と向き合い、その気持ちをコントロールしようと努力しています。この経験が自分を一回り大きく成長させることができます。

最近、高校生がランニングする姿を多く見かけるようになりました。今までの努力が水の泡にならぬよう、自分を追い込んで、トレーニングしているのでしょう。不安とも戦っているはず。いつまでこの生活が続くのか、大会は開催されるのか・・・掛けていた分、思いも強いと感じます。

皆さんも、今の状況を「仕方ない」で済ませず、「こんな時だからこそ」という強い思いで、日々の生活を送ってほしいと願っています。



3学年主任 今村恵美子



卒業証書授与式、3月13日 挙行します

3月6日(金)にHPにてお知らせしました。

～3月13日(金)の日程～

- 8時00分まで 卒業生登校
- 9時10分まで 保護者受付
- 9時25分 卒業生入場
- 9時30分～10時25分 卒業式
- 10時35～11時15分 卒業生学級活動
- 11時15分～ 卒業生見送り

【持参物】・上履き・背負いカバン・県立前期選抜入試の面接記録(該当者)・マスク着用

- ◎ 頭髪・身だしなみをきちんと整えてくる。
- ◎ カメラ・携帯電話は絶対に持参しない。

*卒業式の参列者は、

卒業生・保護者・教職員になります。例年通りの練習はできませんでしたが、しかし、本番に強い皆さんであれば、最高の返事・歌・そして式に臨む姿を披露してくれることと思っています。そして、後輩たちに「さすが先輩！」と言わせてほしいです。どんな状況下であっても、常に最高のパフォーマンスを見せてくれた卒業生の皆さん。3月13日、義務教育・中学校最後の1日、最高の1日に。



また、卒業式に向けて、県北中先生方一丸となって準備をして下さいました。

当日、校舎内には先生方の温かい思いが、いたるところに散りばめられています。感謝の気持ちでいっぱいです。

**【民友新聞に掲載されました！
"頑張る子どもたち"**

鈴木くん・鈴木さん]



～自分のやっていることは

人の役に立っている～（前略）

あのパナソニックの創設者として有名な松下幸之助さんは、生前、各地の自社工場の視察に訪れています。彼が訪ねたある工場の中に、ただひたすら小さいソケットのついた豆電球を磨く作業をしている工員の方がいました。松下幸之助さんはしばらく作業を眺めていたかと思うと、いきなり感に堪えない声で、「ええ仕事やな」と言ったのです。

すると、みんなびっくりして手が止まるわけです。私にはその人たちの心の中はわからないので代弁はできませんが、「電球を磨く仕事が、何がいい仕事なの？」と、なかには疑問に思った人がいると思います。

すると、幸之助さんは彼らにこう言いだしたのです。「ええ仕事や。あんたらが磨いている電球は、どこで光るか知っとるか？」

たぶん、電気磨きの工員さんたちのほとんどがそんなことを考えたことはないと思います。今、自分が磨いているこの電球が、どこで、どういう風に光っているかなんて考えて磨いていないわけです。戸惑う彼らに幸之助さんは、こう続けたのです。「山間の村の中には、まだ電気がいきわたっていないところがいっぱいある。そういうところにも子供たちがいっぱいおる。そこに住む子供たちは夜になって暗くなったら、外で遊ぶこともできなくなる。あとは寝るだけや。本というのは人間の心を豊かにするわな。その本を読んで彼らが未来を夢見て、心を躍らせ”、ああ、僕も大きくなったら、こうなろう、ああなろう”と、そう考えさせてくれる読書も、日暮れとともにページを閉じなければならぬときがやってくる。もう少し続きを読みたい。でも暗くて読めない。そんな時、あんたらが磨いた電球が”ポツ”とともりよる。その電球の下には、彼らがこれから読みたいと思っていた活字が、はっきりと見える。子どもたちはその本を開いて、また心の夢の世界に踊らせ続けることができる。**あんたらのしていることは子供たちの夢と未来をはぐくむええ仕事や。ほんまにええ仕事やなあ**

幸之助さんにそう言われて、彼らはボロボロと涙をこぼし始めたのです。

世の中に何の意味もない仕事はないのです。工員さんたちも自分たちの仕事の意義を知り、嬉しかったのでしょ。

（涙の数だけ大きくなれる！ 木下晴弘 フォレスト出版）

～夢は人を裏切らない～

アテネオリンピックの後、パラリンピックが行われていますが、障害を持っていても前向きにスポーツに打ち込む姿に感動します。そのプレーを見ていてアボット投手を思い出しました。

彼は生まれつき右手首より先がありませんでした。父親に勧められて彼が野球を始めたときに友人から「アボットは右腕が使えないから野球は無理だよ」と言われました。

そのことを泣きながら、母親に相談すると「**あなたの右腕は障害じゃなくて、大きい人や小さい人がいるのと同じように個性だよ。努力すれば必ずできるよ**」と言われました。

両親に励まされながら野球を続けた彼は、投げた後にグローブを持ちかえる投球をマスターして、投手としてミシガン大学で活躍しました。さらに、ソウルオリンピックに出場、その後、アメリカのメジャーリーグにドラフト一位として入団します。そして、ついにニューヨークヤンキースの投手として、ノーヒットノーランの大記録を達成します。

このときのインタビューで彼は、「**ハンディがあるのは事実だが、私はこれを障害だと思ったことは一度もありません。一生懸命に練習すれば、克服できるのです。**」と答えています。

私もそうですが、テニスや仕事が上手いかなないと、どうしても言い訳をしたくなります。でも、アボット投手の言葉を聞くと、自分の甘さを反省させられます。

障害を持っていても、諦めず努力している人がたくさんいると思います。健康に恵まれている人は、もっとがんばらないといけませんね。この話を聞いた時にアボット投手を凄いと思ったのはもちろんですが、彼のお母さんの言葉に感動しました。

（中略）

片腕の少年が将来、大リーグでノーヒットノーランを達成することに比べたら、どんなことも不可能ではないと思います。

自分の可能性を信じるのが大切だと思います。

（大切なことに気づく24の物語 中山和義 フォレスト出版）

